

## 病害虫発生予察特殊報 第2号

作物名：アスパラガス  
病名：アスパラガス疫病  
病原菌：*Phytophthora* sp.

### 1 発生確認経過

平成28年9月、県北部の露地アスパラガス栽培ほ場において、若茎や養成茎に水浸状の斑紋を生じ、根部が腐敗した株が確認された。症状から病害が疑われたので、長野県野菜花き試験場及び秋田県立大学で診断したところ、本県では発生未確認のアスパラガス疫病菌 *Phytophthora* sp. による病害であることを確認した。

国内におけるアスパラガス疫病の発生は、平成10年に富山県で初めて確認され、その後、北海道、秋田県、福島県、愛媛県、佐賀県で報告されている。

### 2 病徴及び被害

- (1) 若茎や養成茎に水浸状の病斑を形成し（図1）、根部に腐敗を生じる（図2）。他県では、水浸状の病斑が乾いて灰白色になり、やがて周縁が赤褐色となる症状も確認されている。
- (2) 若茎に発生した場合は、穂首が曲がり萎凋症状を呈することがある。
- (3) 病勢が進むと萌芽しなくなり、株を掘り上げると鱗芽、地下茎、貯蔵根に腐敗症状が認められる。
- (4) 本病の多発ほ場では、被害が甚だしい場合、株は枯死することがあるため、欠株が多くなる。

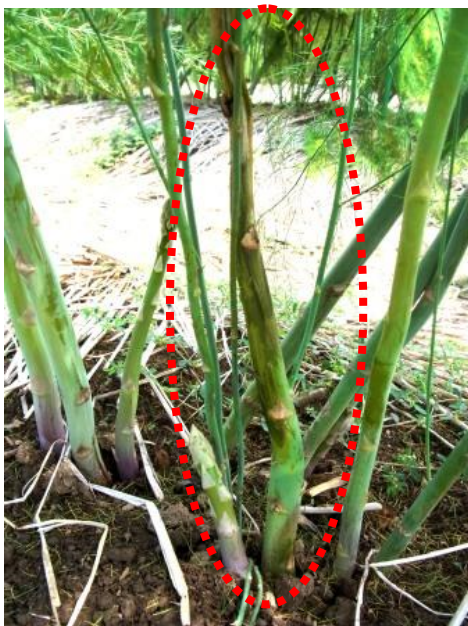


図1 養成茎上の水浸状の病斑  
(野菜花き試験場環境部 提供)



図2 根部の腐敗  
(野菜花き試験場環境部 提供)

### 3 発生生態

- (1) 病原菌の生育適温は25℃付近で、多湿を好むため、梅雨期や秋雨期に発生が多くなる傾向がある。
- (2) 病原菌は、汚染された水や土壌の移動により伝搬する。
- (3) 越冬した罹病残渣や感染株、あるいは土壌中の卵胞子が翌年の発生源となる。

### 4 防除対策

- (1) 靴をていねいに洗浄するなど、発病が確認されたほ場の土壌を、他のほ場に持ち込まないようにする。
- (2) 畝間に停滞水が生じないように管理するとともに、明渠を掘るなどほ場の排水対策を行う。
- (3) 敷わら等を行い、降雨による土の跳ね上りを防ぐ。
- (4) 茎枯病や斑点病等他の病害の防除を徹底し、株の草勢を弱めないよう管理する。
- (5) 発病茎は早期に刈り取り、ほ場外で焼却又は埋却処分する。
- (6) 発病が確認された場合は直ちに、また、前年に発生が確認されたほ場では立茎を開始したら殺菌剤（表1）を散布する。
- (7) 被害が甚だしい場合は、ほ場中の菌密度が高く防除が困難なため、アスパラガスの栽培歴のない場所へ新植する。

表1 アスパラガス疫病に登録がある殺菌剤

(平成28年12月22日時点の農薬登録内容をJPP-NETで確認)

薬剤名	一般名	FRAC コード	希釈倍数	使用時期	使用回数
ダコニール1000	TPN*水和剤	M5	1000倍	収穫前日まで	4回以内
フォリオゴールド	メタラキシルM ・TPN*水和剤	4 M5	1000倍	収穫開始 7日前まで	3回以内
プロポーズ顆粒水和剤 ワイドヒッター顆粒水和剤	ベンチアバリカルブ イソプロピル ・TPN*水和剤	40 M5	1500倍	収穫前日まで	3回以内

\*TPNを含む農薬の総使用回数は4回以内

連絡先 長野県病害虫防除所  
所長：久保田純司  
担当：嵯峨 裕之  
TEL：026-248-6471（直通）  
FAX：026-248-6473  
E-mail：bojo@pref.nagano.lg.jp